

第286回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年3月26日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
吉原 浩	委員	碓井 真史	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	斎藤 将彦
事務局	海津 智洋 紫竹 聡子

## 4 議 題

### 1) 番組合評

「新潟一番プレゼンツ がんばる新潟人

熱血！熱中！高校生 SP」

〔放送：2012年2月11日(土) 10:30～11:25〕

(説明：番組プロデューサー 斎藤 将彦)

### 2) 会社報告

①2月の視聴者の意見。(報告：番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例の報告等。(報告：番組審議会事務局)

### 3) その他

## 5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組は夕方ワイド新潟一番の毎週木曜日に放送しているコーナー企画「がんばる新潟人」の特集であり今回は高校生に絞って制作したものであること。また将来のある高校生が新潟でたくさん頑張っていることを番組として県民のみなさんに発信できたら良いと考えて番組化したものであることなどを報告した。

●「高校生」という取材対象が良かったと思う。中学生でもなく大人でもない、まだ周囲の支えが必要だが自分の考えが少しずつ出てきている・・・という若者達の頑張る姿を見せてもらって、彼らのひたむきさや素直さがストレートに伝わってきた。

●頑張る高校生たちの周囲の親や監督さんたちの支えがくどくなく、さり気なく出ていたのが良かったと思う。大人の入り口に立っている本人を見てあげるという姿勢。親たちの取材があまりなかったのがより清々しさを増していたように思う。

●阿賀黎明高校の愛ちゃんとしおりちゃんとはお互い足りないところを補うチームワークがちゃんとできていることが伝わってきた。あの阿賀の大自然があつてこそボート部の活躍の場があつて、それと同時に自然の脅威というものを通してより強く逞しくなっていく姿が捉えられたのだと思った。

●登場する高校生の表情の良さと阿賀に見られる新潟の風景が良く出ていたと思う。新潟の自然の風景、その中で高校生が頑張っているというだけで新潟の大人は幸せになると思った。

●ボート部の二人がともに負けず嫌いで、二人の間で信頼関係があつて・・・というのを先生のコメントではなくて映像で見せてくれたら見てる方はわかりやすく興味深かったと思う。国体や全日本選手権で優勝した二人。泥まみれのボートなど豪雨災害を乗り越えていった姿をよく捉えていたと思った。「災害がなければこんなに強い気持ちでなかった」という言葉も引き出してよかった。

●新潟高校の高橋海渡くん。24代高校生竜王で全国大会で準優勝した時の勝負の厳しさや将棋に真摯に向き合う人物像が良く表現されていたと思う。

●将棋と学校生活の両立という点では他の話題にはない視点が出されていたが、勉強との両立という誰もが抱える問題についてもうちよつと深掘りしたら「高校生」という視点がより出たかもしれないと思った。

●将棋は最後の最後は体力の勝負になるとして、体を鍛えなければならぬというところを本人の感想として伝えているところも素晴らしいと思った。

●巻総合高校の松本里緒さんを見ていてなでしこジャパンの澤穂希選手を連想した。男の子の中でこれだけ頑張っているのにルールで公式戦に出れないなんてとってももどかしい。でもこうして頑張っていれば将来女子でもプロなどでやれるのではないかと期待感を感じさせてくれた。

●小さい頃から野球が好きで、平日は学校で、土日は女子軟式野球クラブで励む彼女。野球が好きだという彼女の真っ直ぐさがインタビューなどからとても印象に残った。彼女を見守る監督の温かい眼差し、チームプレー精神を説く父親など良い環境の中に彼女が居るんだと思った。

●上越総合技術高校の3人も、やはり仲間の大切さであるとか物事をやり遂げることやモチベーションの持ち方であるとか、そういった大事なメッセージというのが込められていたと思う。

●測量が競技になるというのが分からなかったが、早さや正確さを競うものだと説明があったので分かりやすかったと思う。

●測量の競技はとてもマニアックな世界だった。どうせマニアックなのだからもっとマニアックに説明を加えていって普段テレビでは見られないようなマニアックな面白さを出してくれても楽しかったのではないかと思った。

●測量競技の中身が良くわからなかった。映像を使うなどして分かりやすく説明してくれると競技自体への理解も進み面白かったのではないかと思った。

●頑張っとうまくいった4組の高校生たちを紹介したが、日の

当たらないようなところで頑張っている高校生たちもいる。そういう彼らの頑張りの紹介も紹介して欲しいと思った。

●番組で紹介した4組の話はこの番組だけでは勿体ない気がした。いくつかの番組に分けることができるくらいもっと詳しく興味深い話があるのではないか。高校生に対する大人たちの見方が変わったのではないか・・・など、新潟にこんな素晴らしい高校生たちがいっぱい居るんだということを情報発信してくれていると思った。

●本当に自分の言葉で話している時の、生身の高校生の表情を覗き込む機会が大人たちには無いんじゃないかと改めて思う。本当に頑張っている高校生の心からの言葉や姿を見たり聞いたりしたことが無かったような気がして、この番組を見ていてとても清々しいものを見せていただいたように思った。

●すべて4つの高校性の話題それぞれに忘れがたいメッセージというのが入っていた。一つ目の高校生は「辛かったら辛かった分だけ良いことがあるよ」であり、二つ目は「才能よりは、ちょっとずつ積み重ねることが大事です」。三つ目は「ただやるだけじゃなくて、どういうふうにするか具体的に考える」。最後は「辛いこともあったけど努力した分、結果はついてくる」。当たり前と言えば当たり前の話だけれど、我々世代から見ると今どきの高校生というのは分からないものだろうと思っていたところが、こういう普遍的なメッセージというのが実はちゃんとあるのだなあと思い、見ていて安心した。

●内に秘めた闘志を淡々と描くことでテーマの「熱血！熱中！」がかえって印象付けられた番組だった。注目の逸材たちの今後も取材して欲しい。

●新潟の高校生は都会の高校生とはずいぶん違う気がした。自由に自分が好きなことをやっている。自由な思想が高校生活の中にあり、枠に嵌めていない高校教育の姿がくみ取れる。単に学校の成績だけを追いかけているのではない、好きなことを夢中になって追いかけている姿をレンズを通して視聴者に届けている。温かい番組だと思った。

## 6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

2月…… 170件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年2月27日)から昨日(平成24年3月25日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第285回審議会では「天使の歌声 全盲10歳少女 被災地へのメッセージ」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

## 8 今回の第286回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を

掲載します。

## 9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 2月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 2月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（3/3, 13号）
- ・ BPO 報告（No. 107号）

以上